

渋谷ファッション & アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	共通授業	2024年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	デッサン応用 I 共通 II-1「骨格」ドローイング	実習	清水健太郎

授業の到達目標 (目標とする検定)	骨(人体骨格モデルや牛骨など)を多角的に観察することで、有機的な形態や質感・明暗などから独自の造形的魅力を見つけ出す力を養うと共に、その魅力を効果的に伝える構図や構成、描写する力を高める。
----------------------	--

授業の内容	<p>期間:4/8~4/11 AM 計4コマ</p> <p>我々人間を含め生物の体内に存在する「骨」には、肉体の機能ゆえの多様な形状を有しているが、造形的観点で見ても、とても魅力的な要素を多く含んでいる。 今回の授業では、「骨」を人体としての関連性や生物的機能などから切り離し、純粋に自然が作り出した造形物として扱い、それぞれの視点により見出した魅力的な形態や明暗、テクスチャーなどの部分を基に、その魅力を絵としてより効果的に伝えるべく構図や構成などを意識しながら積極的にドローイングを試みる。</p> <p>・まずはクロッキー帳へのドローイングを通して取材や構図の吟味を行う。 特に構図については、自身が面白いと感じた部分をいかに絵画的魅力として見せるかをしっかり模索する。</p> <p>・ドローイングについては、木炭紙サイズの紙に鉛筆などの単色のみの描画材に限らずカラーコンテ(カラーパステル又はコンテパステル)や水性絵具による色彩も関わらせるなど、柔軟かつ積極的なアプローチで描き進める。</p>
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
1	4/8 前提講義 4/11 講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

<p>授業持ち物</p> <p>・ドローイング用具 クロッキー帳・鉛筆・カラーコンテ(カラーパステル又はコンテパステル)・水性絵具(水彩・アクリル絵具)など</p> <p>・B2サイズTMKポスター紙(事務室にて販売あり。)</p>	<p>学校で準備する教材など</p> <p>・モチーフ (人体骨格・牛骨など骨各種)</p> <p>・モチーフ台 数台</p> <p>・画板(中)人数分</p>
--	--

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	共通授業	2024年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	デッサン応用 I 共通 II-2解剖学概論(人体デッサン)	実習	大家泰仁

授業の到達目標 (目標とする検定)	人体の基本的な構造(骨格および筋肉)についての理解を深める。 身体の各部(皮膚、筋肉、骨格)を造形要素として捉えて描画する。
----------------------	---

授業の内容	<p>期間:4/15~25 AMのみ 計8コマ 通常人体は外見を観察して描きます。ただ身体の外見は、骨格や筋肉等の内部の構造と表裏一体にあります。 この課題では、まずB1サイズの大きな画面に人体を描きます。そして画面に描かれた像の上に骨格や筋肉を描きます。1枚の画面に身体の外側と内側の両方を重ねて描くことで、人体の形と構造の理解を深めます。</p> <p>※対象物(モチーフ)・・・男性ヌードモデル。主に連続の固定ポーズを設定します。</p> <p>※骨格を描く際は、骨格見本(模型)や解剖図(資料)を参考にします。授業で参考にする資料は学校で用意しますが、各自で参考にできる資料があれば持参してください。</p> <p>※観察と推察により描くことが求められます。じっくり丁寧に描くことも大事ですが、各自の自由な発想による構成やドローイング等にも展開させましょう。</p> <p>※毎回の授業は始めにクロッキーを行います。</p>
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
2	4/15 前提講義(スライド)、制作
3	4/25 講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

授業持ち物	学校で準備する教材など
<p>・ドローイング用具 クロッキー帳・鉛筆・カラーコンテ(カラーパステル又はコンテパステル)・水性絵具(水彩・アクリル絵具)など</p> <p>・B1サイズTMKポスター紙(事務室にて販売あり。)</p>	<p>・モデル(男性・ヌード)</p> <p>・B1サイズTMKポスター紙</p> <p>・画板(大)</p> <p>・人体骨格見本・解剖図</p> <p>・関節の模型(部分)</p> <p>・プロジェクタとモニター</p> <p>・棒(モデル用)</p>

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	共通授業	2024年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	デッサン応用 I 共通II-3塑像 II	実習	工藤里紗

授業の到達目標 (目標とする検定)	対象物の「構造・質感・量感」など、立体としての物の捉え方を学ぶ。
----------------------	----------------------------------

授業の内容	<p>期間:5/7~5/9 AM 3コマ</p> <p>人間または動物をテーマに水粘土を使って立体物を造形する。</p> <p>日頃のドローイングやデッサンで平面的にイメージしているものを、現実の空間に立体として表してみる。</p> <p>平面では意識しにくい作品の裏側や素材の重さ、作品の量感、構造などの課題に応えていく。</p>
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
4	5/7前提講義 5/9講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

授業持ち物 ・作業着 ・不要な布(さらしのような生地が好ましいが、不要なTシャツやタオルなどでも可) ※粘土が乾かないよう途中の作品に巻いておくため ・クロッキー帳、描画道具 ・粘土べら(持っている方は持参してください)	学校で準備する教材など ・石膏像、剥製 ・粘土 ・塑像板、 ・ゴミ袋(人数分) ・粘土べら
--	---

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	共通授業	2024年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	デッサン応用 I 共通II-4色彩構成 II	実習	永井俊一

授業の到達目標 (目標とする検定)	色彩についての知識を活かし、それぞれの色が持つ特性を効果的に利用して制作意図に沿った色彩表現を実践する。
----------------------	--

授業の内容	<p>期間:5/13～23 AM 8コマ</p> <p>前半は、色の三属性(色相・明度・彩度)に関する講義と、小さな課題で色彩の知識を復習します。</p> <p>後半は、色彩とイメージをテーマに1枚の作品を制作します。</p> <p>※この授業の間に「作品タイトル」についての講義を行います。</p>
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
5	5/13前提 色彩に関する講義と課題制作
6	色彩に関する講義と課題制作 5/23講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

<p>授業持ち物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロッキー帳 鉛筆 ・色の画材(色鉛筆 水彩絵具 水彩筆など 持っているもので良いです) ・画用紙を木炭紙大パネルに水張りする <p>※画用紙は事務室で購入できます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水張りテープ <p>※水張りは授業内で指導します</p>	<p>学校で準備する教材など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PCとモニター ・モチーフ ・木炭紙大パネル(人数分) ・水張り用の刷毛
--	---

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2024年度	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	
必修	デッサン応用Ⅱ 絵画Ⅱ-1 静物(光と影)	実習	清水健太郎	
授業の到達目標 (目標とする検定)	絵画制作における基本的捉え方である明暗法を踏まえつつ、「光と影」の存在をより造形的に展開する視点を持つことで、さらに豊かな絵画的表現力を高める。			
授業の内容	期間:4/8～4/25 PM 計12コマ ・静物をモチーフとして、光と影を造形的ポイントにした表現を試みた作品(F15号)を制作する。 ・様々な名画を通して、光や影がどのように活用されているかを紹介。 ・静物や植物をモチーフとし、まずはクロッキーやドローイングを通して、対象の明暗や形態等を把握する。特に光と影に注目し、光の効果、明暗の分布や組立てについて造形的発展性をもって模索する。 ・油彩による描画を通して、さらに光と影の表現において色彩やタッチなど油絵具固有の表現効果の展開性を探る。 ・復習として、油絵具の用具についての基本的な扱いや特性についての説明、キャンバスの張り方なども実習する。			
週	授業計画 及び 学習の内容			
1	4/8画材オリエンテーション (油彩画用具についての解説や授業前提講義) 4/9キャンバス張り実習 制作			
2	制作			
3	制作 4/25講評			
成績評価の方法				
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況				
教員の實務経験(企業や団体での實務経験)				
Webポータル参照				
授業持ち物		学校で準備する教材など		
・ドローイング用具 クロッキー帳・鉛筆・カラーコンテ(カラーパステル又はコンテパステル)・水性絵具(水彩・アクリル絵具)など ・油彩用具一式(アクリル絵具も可) ※F15号キャンバス(キャンバス布と木枠)は学校で用意します(有料)※キャンバス張りを実施		エスキース用クラフト紙 モチーフ(観葉植物や流木・枯れ枝・トルソ・石膏像など) モチーフ台 キャンバス張り器・タックス 金づち・木槌・霧吹き ※キャンバス布と木枠(人数分)		
配付資料				

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2024年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	デッサン応用Ⅲ 絵画Ⅱ-2平面化とマチエール	実習	菊地達也

授業の到達目標 (目標とする検定)	絵画の具象抽象問わず普遍的な表現手法でもある「平面化」を実践し、 抽象の入り口に赴き、更にはその鑑賞能力を高める。
----------------------	--

授業の内容	<p>期間:5/7~23 PM 計11コマ 近代以降の絵画における空間表現の一つである「平面化」を試みた作品(20~25号)制作します。</p> <p>「平面化」は、現代でも用いられる空間様式ではあるが実は決して新しくありません。ルネサンス以前の絵画は遠近法の未発達もあって、空間意識が異なり結果的に平面になっています。そのルネサンスによって確立された空間も1世紀も経つと遠近法に縛られない絵も出現し、数世紀後にはキュビズム台頭によってメインストリームから外れていきます。つまり絵画の歴史を辿ると、むしろ平面傾向の時代が長く、三次元的な空間を意識したのは数百年程度だったと考えられます。今では1部のジャンルにその影響を残しますが、現代の平面化はルネサンス以前と違い意識的に行っていて、遠近法を経験してきた分背景の奥行や形態の厚み等、自在にコントロール出来るように発達してきた感があります。</p> <p>内容 モチーフは基本的には静物。※人物との組合せも可(他の授業でのデッサンやクロッキーを参考に) エスキースを充実させ作品制作に入ります。</p>
-------	---

週	授業計画 及び 学習の内容
4	5/7前提講義 ドローイング・エスキース制作
5	制作
6	制作 5/23講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

<p>授業持ち物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドローイング用具 クロッキー帳・鉛筆・カラーコンテ(カラーパステル又はコンテパステル)・水性絵具(水彩・アクリル絵具)など ・油彩用具一式(アクリル絵具も可) ・15~20号キャンパス 	<p>学校で準備する教材など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モチーフ ・エスキース用クラフト紙
--	--

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2024年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	デッサン応用Ⅲ 絵画Ⅱ-3細密描写	実習	佐藤 功

授業の到達目標 (目標とする検定)	目の前のモチーフに迫るような描写表現を通して、対象への観察眼を深めると共に、描写における技術的な充実度や新たな表現的発展性を高める。 また、表現テーマとモチーフの関係性や独自の視点の在り方についての意識を高める。
----------------------	---

授業の内容	期間: 5/27～6/6 AM/PM 16コマ <ul style="list-style-type: none"> ・自身が興味のあるモチーフを用意し、細密的描写による静物画を制作する。(モチーフは持参してもよい) ・様々な名画を通して、「描写」表現がどのように展開されてきたかを紹介。 ・細密描写が容易になる下地作り ・支持体への鉛筆による下絵描画、アクリル絵具での下絵の描き起こしの後、油彩による描画を行う。
-------	---

週	授業計画 及び 学習の内容
7	5/27前提講義 支持体準備・デッサン・制作
8	制作 6/6講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の實務経験(企業や団体での實務経験)
Webポータル参照

授業持ち物 ・描きたいと思うモチーフを持参してもよい(前提講義を聞いた後でもよい) ・デッサン用具(各種鉛筆、消しゴム等)・画用紙(使用する支持体と同程度のサイズにカット) ・油彩用具一式(筆の種類などは前提講義後でもよい) ・黒のアクリル絵具、細めの面相筆(水彩筆、デザイン筆など可) ※支持体(F8号木製パネル)や下地制作材料は、学校で用意します。(有料)	学校で準備する教材など ・モチーフ ・モチーフ台 ・布や背景用パーテーション ・カラージェッツ数色 ・支持体及び下地制作材料や用具など
--	---

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2024年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	造形演習応用 絵画Ⅱ-5色彩と素材	実習	大島幹

授業の到達目標 (目標とする検定)	モチーフの固有色に捕らわれることなく色彩に対する柔軟性のある発想力と応用力を鍛える。 また、絵具の物質性にも注目し、水性・油性の特性や扱い方、表現的可能性についての認識を高める。
----------------------	--

授業の内容	<p>期間:6/24~7/11 AM/PM 計24コマ</p> <p>・様々な材質感を持つ物を組み合わせた静物をモチーフに、色彩等の表現的展開を試みた絵画(20~25号)を制作する。 ・前半:水性系下地材(アクリルジェッソなど)やメディウム類を用いて、木製パネルへのテクスチャー作りやコラージュなどの下地処理を施した後、画面上の凹凸等を利用した版画制作をおこなう。 ・後半:水性及び油性の絵具による下地への着彩を施す。目の前のモチーフの固有色に捕らわれずに、自由な発想による色彩表現を試みる(コラージュ素材本来の色と絵具の色との関りや色彩同士の偶然的出会い等も模索する)。また、描画に際しても筆だけでなくローラーやヘラ、マスキングなどを用いて多様な絵具の表情変化や、画面の凹凸と描画イメージの関係性等も模索する。</p>
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
11	6/24前提講義 ドローイング コラージュ等による下地制作
12	下地を版とした刷り 制作(着彩)
13	制作 7/11講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

<p>授業持ち物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20~25号 木製パネル ・ドローイング用具(クロッキー帳・鉛筆・カラーコンテ(カラーパステル又はコンテパステル)・水性絵具(水彩・アクリル絵具)など) ・アクリル絵具(ジェッソや各種メディウム等含む) ・油彩用具一式 ・ホルペイン製 水可溶性油絵具DUO[デュオ] ※任意の色1本(授業が始まってからの購入でよい) ・コラージュ素材など ・新鳥の子紙または色鳥の子紙(四六判)※学校で販売します 	<p>学校で準備する教材など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デモ用としてアクリルジェッソ、モデリングペースト、ジェルメディウム ・ローラー・マスキングテープ ・ヘラ・ラッカースプレー・紙やすり ・バレン・ビニール手袋・ぼろ布 ・試し紙等
--	--

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2024年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	造形表現応用Ⅰ 絵画Ⅱ-4グリザイユ技法(人体)	実習	中嶋明

授業の到達目標 (目標とする検定)	絵画を感覚的にとらえるのではなく、色と形を構築的に組み立てるシステムとして「明度」を優先した伝統的な制作技法を理解する。 不透明色、透明色の性質、またその扱い方の違いを身につける。
----------------------	---

授業の内容	期間:6/10~20 AM/PM 計16コマ <ul style="list-style-type: none"> ・着衣の女性モデルをモチーフに、グリザイユ技法で油彩画を制作(F15号)する。 ・絵画を感覚的にとらえるのではなく、色と形を構築的に組み立てるシステムとしての側面を理解していく。 ・不透明色、透明色の性質、またその扱い方の違いを身につける。 ・木炭によるデッサンから始め、油絵具のシルバーホワイトとピーチブラックの白黒の2色のみで描いていく。 ・形体と空間、材質感など油絵で描くデッサンとしてひとまず完成させる。 ・モノトーンの絵画として描き終えた後、透明度の高い有彩色で色彩を整える。
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
9	6/10 前提講義 制作
10	制作 6/20(AM) 講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

授業持ち物 ・F15~20号キャンパス ・クロッキー帳 ・木炭 ・油彩用具一式(白色絵具はシルバーホワイト、黒色絵具はピーチブラックを用意) ・アルキド系速乾メディウム	学校で準備する教材など コスチュームモデル(女性) (ドレープやヒダがある服など) モデル台
---	---

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2024年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	造形表現応用 I 絵画 II -6支持体研究	実習	清水健太郎

授業の到達目標 (目標とする検定)	近代以降の絵画表現における多様な形態や素材による支持体の在り方を知ると共に、描かれるイメージと支持体の「形」との関係性についても意識し、新たな絵画空間への発想の足掛かりとする。
----------------------	--

授業の内容	<p>期間:9/9~26 AM/PM 計20コマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンバス以外の素材の支持体を用いる事で、矩形のキャンバスに捉われない自由な形態や素材の絵画作品(30号程度)を制作する。 ・本課題のモチーフは自由。(静物、風景、人物、シュール、抽象など) ・その際に、他の授業でのデッサン(静物や人体など)やクロッキーなど参考としてもよい。 ・様々な作家による変形支持体の作品を紹介し、描かれるイメージと絵画の外形や成立ちとの関りを考える。 ・支持体にスタイロフォーム等のキャンバス以外の素材を利用し、自由な形態やテクスチャーを成形し下地処理を行なった後、アクリル絵具や油彩による描画を行う。
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
15	9/9前提講義 ドローイング(エスキース) 支持体制作
16	制作
17	制作 9/26講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

<p>授業持ち物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドローイング用具 クロッキー帳・鉛筆・カラーコンテ(カラーパステル又はコンテパステル)・水性絵具(水彩・アクリル絵具)など ・アクリル絵具用具・油彩用具 ・カッター ・木炭 ・アクリルジェッソ ・スチロール用接着剤 <p>詳しくは、前提講義にて説明する ※支持体(30号程度)の材料等は学校で用意します(有料)</p>	<p>学校で準備する教材など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エスキース用クラフト紙 ・スタイロフォーム(厚さ2種類) ・スチロールカッター
---	---

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2024年度	後期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	造形表現応用Ⅱ 絵画Ⅱ-7抽象的表現	実習	加藤健二

授業の到達目標 (目標とする検定)	近代以降の絵画空間における多様性を知ると共に、抽象的表現の試みを通して絵画的アプローチのより幅広い見識を広げる。
----------------------	--

授業の内容	<p>期間:9/30~10/17 AM/PM 計22コマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抽象的表現を試みた平面作品(25-30号)を制作する。 ・様々な作家による抽象作品を紹介し、作者の視点や制作アプローチの多様性について紹介する。 ・今回の制作では、作者の「外的・内的要因」などを基にした造形要素の在り方や関係性に注目し、それらの要素を絵画的にいかに関係性を試みる。 ・それぞれの視点や造形的興味ポイントを探るべく多様なテーマ「意外性」「固有色の解放」「要素化」・・・などによるドローイングやエスキース制作を積極的に行い、新鮮な感覚との出会いを目指した平面作品への足掛かりとする。
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
18	9/30前提講義 ドローイング・エスキース制作
19	制作
20	制作 10/17講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

<p>授業持ち物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドローイング用具 クロッキー帳・鉛筆・カラーコンテ(カラーパステル又はコンテパステル)・水性絵具(水彩・アクリル絵具)など ※筆や刷毛のバリエーションは重要 ・25-30号キャンバス(古キャンバス可) ・油絵具一式(アクリル絵具も可) 	<p>学校で準備する教材など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静物モチーフ ・クラフト紙(20号程度)複数枚
---	--

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2024年度	後期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	造形表現演習応用 絵画Ⅱ-8人体構成	実習	菊地達也

授業の到達目標 (目標とする検定)	古代から現代に至るまで多様な変遷を辿ってきた「人体」表現を考察し、「人体」の持つ造形的魅力を独自の視点や発想で捉え、より豊かな絵画空間の構築への足掛かりにする。
----------------------	--

授業の内容	<p>期間:11/5~11/21 AM/PM 計22コマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性モデル(ヌード)をメインのモチーフとして、独自の視点や構成を積極的に探求した作品(25-30号)を制作する。 ・これまでの授業で体験した再現的な表現から抽象的表現までの多様なアプローチを参考に、自身の表現の方向性などをドローイングやエスキースの制作を通して模索する。 ・必要であれば教室内に設置した複数のモチーフや環境等を組み合わせてもよい。
-------	---

週	授業計画 及び 学習の内容
21	11/5前提講義 ドローイング・エスキース 制作
22	制作
23	制作 11/21講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

<p>授業持ち物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドローイング用具 クロッキー帳・鉛筆・カラーコンテ(カラーパステル又はコンテパステル)・水性絵具(水彩・アクリル絵具)など ・油彩用具一式(アクリル絵具も可) ・25-30号キャンバス 	<p>学校で準備する教材など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性モデル(ヌード) ・エスキース用クラフト紙 ・モデル台など ・大型石膏像 ・マネキンなど
--	--

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2024年度	後期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	造形表現演習応用 絵画Ⅱ-9風景構成	実習	清水健太郎

授業の到達目標 (目標とする検定)	取材～エスキース～本画という流れを意識して制作に取り組む。 エスキース制作を入念に行い、基本的な絵画空間の造形的骨組みを探る。 モチーフへの多様な視点や思考、さらに自身が求める絵画空間について追及する。
----------------------	---

授業の内容	<p>期間:11/25～12/12 AM/PM 計24コマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「都市と人」をテーマに、実際に校外に出て多様な情景の取材を基にした作品(30号)を制作する。 ・取材より得たクロッキーや写真資料などを基にドローイングを重ねエスキース制作を行う。 ・建造物などの風景や人物、それらを組み合わせた空間構成など自由。 <p>本課題を制作する過程で修了制作への構想や技法・表現実験の足掛かりとします。</p>
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
24	11/25 前提講義 ・校外への取材 ・制作
25	制作
26	制作 12/12講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

<p>授業持ち物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取材用具として、クロッキー帳や描画材、カメラ又はスマートフォンなど ・ドローイング用具 クロッキー帳・鉛筆・カラーコンテ(カラーパステル又はコンテパステル)・水性絵具(水彩・アクリル絵具)など ・30号キャンバス(パネルも可) ・油絵用具一式(アクリル絵具の使用及び併用可) 	<p>学校で準備する教材など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エスキース用クラフト紙
---	---

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2024年度	後期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	造形表現修了制作 絵画II-10修了制作	実習	清水健太郎 菊地達也 中嶋明 結城康太郎

授業の到達目標 (目標とする検定)	1年間の学びの集大成として、それぞれの視点やテーマ・技術を含む造形的特性をしっかりと認識し、自立した制作者としての足掛かりをつくと共に、発表者として自身の作品を展示の在り方についての意識を高める。
----------------------	--

授業の内容	<p>期間:12/16~2/13 AM/PM 計44コマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現時点での各自の制作スキルを活かし、作品テーマを考え、集中的に独自の表現を試みる機会が修了制作です。 ・本校は1年制の学校であるため、1年毎に修了となる。そのため1年間の学習の成果を問う形で、毎年修了制作を行う。 ・テーマは自由で、50号以上の作品を制作する。 ・油彩・アクリル絵具、キャンバス、パネルなど画材・素材は自由。 ・積極的にドローイングやエスキースを作成し、教員と相談しながら自己の作品内容の方向性や掘り下げを行う。 ・作品の展示方法や額縁の在り方、タイトルなど発表に向けた準備についても吟味する。
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
27	12/16前提講義・導入 ~エスキース
冬季休業	
28	1/14計画書提出 制作
29	制作
30	制作 中間講評(日程は別途お知らせします)
31	制作
32	制作 修了制作展で講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

授業持ち物	<ul style="list-style-type: none"> ・ドローイング用具 クロッキー帳・鉛筆・カラーコンテ(カラーパステル又はコンテパステル)・水性絵具(水彩・アクリル絵具)など ・50号以上のキャンバス(パネルなども可) ・油絵用具一式(アクリル絵具の使用及び併用可) 	<p>学校で準備する教材など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修了制作計画表用紙(作品名・展示計画含む) ・エスキース用クラフト紙
-------	---	---

配付資料

清水健太郎

略歴

- 1972 東京都生まれ
- 1995 工学院大学 電子工学科卒業
- 1999 武蔵野美術学園 油絵科卒業
- 2001～2005 武蔵野美術大学 助手(通信教育課程研究室)
- 2006～2009 武蔵野美術大学 文科省選定現代GP「造形ファイル」開発室 主任
- 現在 二紀会 会員
日本美術家連盟 会員
渋谷ファッション&アート専門学校 専任教員
武蔵野美術大学 講師(通信教育課程油絵学科)

主な個展

- 2006 ギャラリーヴェルジェ(相模原)
- 2010 ギャラリー吉豊(銀座)
アートフォーラム千(福岡)
- 2012 ギャラリー檜(銀座)
- 2013 SAN-AI GALLERY(日本橋)
- 2014 コートギャラリー国立(国立)
- 2015 FEI ART MUSEUM YOKOHAMA(横浜)
- 2016 リベストギャラリー創(吉祥寺)
- 2017 光画廊(銀座)
- 2018 東京都美術館<東京二紀展 特別展示>(上野)
THE ARTCOMPLEX CENTER OF TOKYO(新宿)
F.E.I Art Gallery(横浜)
- 2021 SAN-AI GALLERY(日本橋)
光画廊(銀座)
F.E.I Art Gallery(横浜)
- 2022 ギャラリーあづま(銀座)
- 2023 コートギャラリー国立(国立)9月予定

主なグループ展

- 1999～ 二紀展(以後毎年出品 03,奨励賞 07,同人推挙 11,同人賞 16,準会員賞 17,会員推挙)
- 2004 多摩秀作美術展(青梅市立美術館)、伊豆美術大賞展(伊東市観光会館)
- 2007・2018 前田寛治大賞展(日本橋高島屋・倉吉博物館)
- 2019 第1回二紀会選抜台湾展(台湾・台北 国立臺灣藝術大学)
- 2017・2021・2022 「われらの地平線」展(日本橋三越)

その他グループ展多数

- 作家HP <https://shimiken1008.wixsite.com/kentaro-shimizu>
- インスタグラム <https://www.instagram.com/shimiken1008/>

大家泰仁

1965 大阪府出身

1993 武蔵野美術大学油絵学科卒業

個展

1998 かねこアートギャラリーにて個展(京橋)

1999 小野画廊ギャラリーB1にて個展(京橋)

2010 なびす画廊にて個展(銀座)

2011 なびす画廊にて個展(銀座)

2012 なびす画廊にて個展(銀座)

2012 調布画廊にて個展(調布市)

2014 なびす画廊にて個展(銀座)

2015 なびす画廊にて個展(銀座)

2018,9 画廊楽にて個展(横浜)

2020 藍画廊にて個展(銀座)

2021 表参道画廊にて個展(渋谷区神宮前)

2022 ギャラリーあずまにて個展(銀座)

グループ展

1998,1999 多摩うるおい美術展に出品(パルテノン多摩)

1999 昭和シェル現代美術展に出品(目黒区美術館)

2013 武蔵野美術大学通信教育課程 絵画コース教員作品展(小平市鷹の台校 G-FAL)

2015~12 宮本三郎記念デッサン大賞展に出品(小松市立宮本三郎美術館 石川県)
(世田谷美術館分館 宮本三郎記念美術館 世田谷区)

2016「二月のおくりもの」大家泰仁、小野寺潮 二人展(なびす画廊、銀座)

2016 「ドローイングとは何か」第6回全国公募入賞・入選作品展 (ギャラリー志門、銀座)

2019 アートハウスおやべ現代造形展 (アートハウスおやべ 富山県)

2021 WALK THE LINE 6 線に生きる作家たち 後期(ギャラリー志門、銀座)

2022 WALK THE LINE 7 線に生きる作家たち(ギャラリー志門 銀座)

工藤里紗

1980 東京都生まれ

2005 武蔵野美術大学造形学部彫刻科卒業

2011 東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了

2005～09、2015 アトリエの末裔あるいは未来展(旧平櫛田中邸)

2010 彫刻三人展(土屋現代画廊)

2012 個展(ギャラリーモーツァルト)

2014 「木の系譜ー進化する奔流ー」(高島屋 東京日本橋／大阪／横浜)

2015 グループ展(ポスターハリスギャラリー)

2017 グループ展「Current Traditions: Contemporary Japanese Wood Sculpture」(SU Art Galleries)

2019 個展(Gallery gigi)

2020、2022 グループ展(Gallery gigi)

2019 詩集『植物考』表紙(仲田有里著・思潮社)、2022 詩集『持ち重り』表紙(鎌田尚美著・思潮社)

永井俊一

経歴

1966年 東京都生まれ

1991年 東京藝術大学美術学部デザイン科卒業

1996-2018年 株式会社オリエンタルランドに勤務 商品デザイン制作・商品アート制作に従事

2015-2018年 東京都美術館×東京藝術大学「とびらプロジェクト」に参加

2019年 専修学校教員教職課程研修修了

現在 本校文化専門課程専任教員

菊地達也

1956 宮城県生まれ

1984 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻を卒業
卒業制作 サロン・ド・ブランタン賞受賞

1986 東京藝術大学大学院美術研究科油画専攻修了

1987 東京芸術大学大学院美術研究科研究生修了

現在 国画会会員

展覧会

1986 菊地達也展(真和画廊)

1989 上野の森美術館大賞展(上野の森美術館／上野)に出品 賞候補
国展(東京都美術館／上野)に出品
以後、毎年出品(91,92,93年に賞候補)

1991 国際美術大賞展に出品

1992 上野の森美術館大賞展(上野の森美術館／上野)に出品

1994 国展国画賞受賞

1995 国展受賞者展(サエグサ画廊／銀座)に出品
国展 新人賞受賞・会友推挙
東京セントラル美術館油絵大賞展に出品大賞受賞
菊地達也展(JBC画廊)

1996 国展受賞者展(サエグサ画廊／銀座)に出品
菊地達也展(JBC画廊)

1997 みやぎ秀作美術展に出品 ～1998

1998 菊地達也展(JBC画廊)

1999 上野の森美術館大賞展(上野の森美術館／上野)に出品優秀賞受賞 同美術館収蔵

2000 上野の森美術館大賞展入賞者展(吉井画廊／銀座)に出品
国展準会員優作賞受賞
菊地達也展(ギャラリー銀舎)
上野の森美術館大賞展入賞者展
(日本IBMコンピューターギャラリー／幕張)に出品

2001 文化庁主催第34回現代美術選抜展に出品
第36回昭和会展(日動画廊本店／銀座)に招待出品
ふるさと美術展(石巻文化会館)に出品
菊地達也展(ギャラリー銀舎)
国画会75周年記念新人選抜展
(アートミュージアムギンザ／銀座)に出品

2002 第37回昭和会展(日動画廊本店／銀座)に招待出品優秀賞受賞
国展 会員推挙
東京国画会会員展(日本橋高島屋)に出品 以後、毎年
日動展(日動画廊本店／銀座)に出品 以後、毎年

2003 第38回昭和会展(日動画廊本店／銀座)に賛助出品(～04年)
第40回太陽展(日動画廊本店／銀座)に出品 以後、毎年
上野の森美術館大賞展20年一作家の視点—
(上野の森美術館／上野)に出品
新たなる視覚展(日動画廊／福岡)に出品
現代洋画展(日動画廊／福岡)に出品

2004 日動展(日動画廊本店／銀座)に出品 以後、毎年

2006 個展 (日動画廊本店／銀座)

2007 個展 (藤崎デパート本館／仙台)

2008 ART WAVE 2008 in 仙台 (仙台メディアテーク)

ART WAVE 2008 in 五島 (五島市笠松宏有記念館／長崎県五島市)

2009 富士山を描く展 (ギャラリーるたん)

2010 個展 (日動画廊本店／銀座)

2012 15の眼展 (光画廊／銀座) 以後、毎年

2014 個展 (仙台三越)

2016 サンクウ展 (ギャラリーサムホーム／銀座)

2017 春の会展 (ギャラリーサムホーム／銀座) 以後、毎年
不思議がいっぱい 迷宮の絵画展 (笠間日動美術館／茨城県笠間市)

佐藤功

1972 岩手県生まれ

1999 武蔵野美術学園 夜間油絵科卒業

2001 第75回国展(以後毎 /'07'19を除く)

2004 昭和会展招待出品(日動画廊)

2006 個展「レスポワール展」(銀座スルガ台画廊)

2007 多摩秀作美術展出品(賞候補)

2008 第82回国展 新人賞 準会員推挙

2009 リアリズムの世界展(飯田美術/以後毎)

2010

佐々木豊と4人展(飯田美術/以後毎)

新・リアリズム宣言展(新生堂/'13'15)

個展(銀座スルガ台画廊)

2011 美は細部に宿る展(日本橋高島屋)

2012 三越美術特選会(日本橋三越本店)

2014 第88回国展 会員推挙

三越美術逸品会(ホテルニューオータニ)

2018 SINCE展(大阪高島屋/'20'22)

神戸アートマルシェ(神戸メリケンパークオリエンタルホテル/川田画廊)

2019 個展(飯田美術)

2021 個展(日本橋三越本店)

現在国画会会員

◆ホームページ

<https://isaosato.net/>

◆ツイッター

twitter.com/Sato_Isao_

◆インスタグラム

[instagram.com/sato_isao_55555](https://www.instagram.com/sato_isao_55555)

◆フェイスブック

[facebook.com/profile.php?id=100009160388095](https://www.facebook.com/profile.php?id=100009160388095)

大鷲幹 (画家名)

略歴

1971 埼玉県生まれ

1997 筑波大学大学院修士課程芸術研究科美術専攻修了

現在 独立美術協会準会員

主な個展

2003 Gアートギャラリー[銀座]

2004 ギャラリー風[銀座]

2006 アートプラットフォーム[東京・杉並]

2009 セイコウドウ[銀座]('11)

2012 画廊るたん[銀座]('17)

2018 川口市立医療センターミニギャラリー[川口市]('19)

主なグループ展

1996 独立展初出品

2000 独立展出品(以後毎年出品, 新人賞'12, 賞候補'14,'15,'16,'19, 奨励賞'18, 齋藤研賞'21, 海老原賞'22)

2001 伊豆美術祭絵画公募展[伊東市観光会館]

2003 青木繁記念大賞公募展[福岡・石橋美術館]

トーキョーワンダーウォール2003[東京都庁]

2005 天理ビエンナーレ2005[天理特設会場]

2007 美浜美術展(第20回記念特別賞)[関西電力原子力事業部本部ギャラリー他]

2008 あさご芸術の森大賞展('10)

2011 CAF.ネビュラ展[埼玉県立近代美術館・埼玉]('12、以降隔年)

2015 春季独立新人選抜展・選抜展賞('19)[東京都美術館]

Weg展 [シロタ画廊・銀座]('16'17'18'19'21)

2022 「美術は今、対峙する16の画面vol.4」[東海ステーションギャラリー]

その他グループ展多数

中嶋明

1955 静岡県生まれ

1978 武蔵野美術大学大学院油絵研究科修了

1979-1981 東アフリカ、中近東、ヨーロッパ各国遊学

2001-2002 文化庁新進芸術家海外研修員としてエジプトに滞在 カイロ・コプト美術館で研修

2007-2008 文化庁新進芸術家海外研修員40周年記念「旅」展出品(新国立美術館)

2009 静岡県文化奨励賞受賞
武蔵野美術大学80周年記念「絵の力」-絵の具の魔術-展出品(武蔵野美術大学美術資料館)

2014 掛川市二の丸美術館にて「終わらない旅 中嶋 明展」

その他 個展・グループ展 多数

現在 独立美術協会会員、女子美術短期大学非常勤講師、横浜美術大学非常勤講師

加藤健二

1953 北海道網走郡津別町に生まれる

主な個展

- 2022 銀座スルガ台画廊(銀座、東京1月) ギャラリーあづま(銀座、東京 5月) アートギャラリー呼友館(川越、埼玉 9月) ギャラリーGK(銀座、東京 10月)
2021 ギャラリーCreate 洛(京都 1月) ギャラリーあづま(銀座、東京 6月) ギャラリーGK(銀座、東京 10月)
2020 ギャラリー木蓮(入間市、埼玉 3月) ギャラリーあづま(銀座、東京 6月) ギャラリーGK(銀座、東京 10月)
2019 ギャラリーCreate 洛(京都 1月) ギャラリーあづま(銀座、東京 5月) ギャラリーGK(銀座、東京 10月)
2018 d-lab gallery (入間市、埼玉 12月) ギャラリーGK(銀座、東京 10月) 襟画廊(銀座、東京 6月)
2017 ギャラリーGK(銀座、東京 10月) 襟画廊(銀座、東京 6月)
2016 ギャラリーCreate 洛(京都 11月) ギャラリーGK(銀座、東京、10月) 09,11,12,13,14,15にも開催 コートギャラリー国立(東京 7月)
2014 ANNEX ART SPACE IN Hggrp(ニューヨーク、アメリカ 11月)
2012 ANNEX ART SPACE IN Hggrp(ニューヨーク、アメリカ 11月)
2010 CENTRAL UTA ART CENTER(ユタ州、アメリカ、企画 11月)

その他

- ギャラリーセンターポイント、ギャラリーイセヨシ、銀座スルガ台画廊(東京)
ギャラリーMOVE(横浜)、VIVRE八戸、ピアノビル八戸(青森)、札幌時計台ギャラリー、釧路ミヤタ画廊
北見商工会議所(北海道)、パリ、シテイインターナショナル、デ、ザール(フランス)など

主なグループ展

- 2022 第12回 輪展 K'sギャラリー(銀座、東京 3月) 第96回 国画展(新国立美術館、六本木、東京、5月)
TAKE FIVE 2021 GALERIE SOL(銀座、東京 6月予定) ベル・エポック展 ギャラリー向日葵、あずま 7月予定)
GROSS WAVE展(ギャラリー暁、銀座、東京10月、予定)
2021 9人のベル・エポック展 コートギャラリー国立(東京 1月) アートスペース カワモト開廊展(富山市、福井県 1月)
第11回 輪展 K'sギャラリー(銀座、東京 3月) 第95回 国画展(新国立美術館、六本木、東京)
TAKE FIVE 2021 GALERIE SOL(銀座、東京 6月予定) CROSS WAVE展(コンチネンタルギャラリー、札幌、北海道)
2020 第10回 輪展 K'sギャラリー (銀座、東京 3月) 福岡現代美術展 (福岡県立美術館)
2019 国画展(新国立美術館、六本木、東京) CROSS WAVE展(ギャラリー暁、銀座、東京)
2018 CROSS WAVE展(コンチネンタルギャラリー、札幌、北海道)
国画展(新国立美術館、六本木、東京) 寿ぎ-描き初め展(画廊 憩ひ、佐賀、九州)
2017 CROSS WAVE展(襟画廊、銀座、東京) 国画展(新国立美術館、六本木、東京)
2016 国画家・オホーツクの作家展(網走市立美術館、北海道)10月
ウイスコンシンの作家との交流展 (マジソン Pro mega Gallery アメリカ 6~9月)
国画展(新国立美術館、六本木、東京) 1982から、84、国画賞、97、会友優作賞、現在会員
華東師範大学美術学院美術館(上海、中国) 3月
2015 WAVE NOW15(井上画廊、銀座) 2005から札幌コンチネンタルギャラリーと交互に開催
2014 韓国 大清湖美術館 企画展招待出品 4月 ウイスコンシンと埼玉の作家交流展(文房堂ギャラリー、東京)
2013 埼玉国画会員展(ギャラリー・ユニコーン、川越、埼玉)
2010 ART NOW(福岡アジア現代美術館、九州) 09、滋賀県立美術館、仙台メディアテーク、宮城)
2009 TOP RUNNER展(hggrp gallery、ニューヨーク、アメリカ)
2008 ウイスコンシン、埼玉芸術協会交流展(埼玉県立美術館)
2005 ウイスコンシンの作家との交流展(マジソン、グリーンベイ、ウエストバンド美術館)
その他
第五回中日友好交流展(武漢、中国)、安井賞展(セゾン美術館、池袋) ASIAN ART NOW2001(ラスベガス、アメリカ)
第31回文化庁主催 現代美術選抜展(愛知、石川、岡山) 現代美術新進作家展(網走市立美術館、北海道)
オホーツク秀作美術展(北網走北見文化センター美術館、北海道) 北網走北見文化センター美術館所蔵作品展 2005、2012など

現在 東京家政大学非常勤講師 元武蔵野美術大学非常勤講師

結城康太郎

1967 京都府生まれ

1991 武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業

その後、本学美術科助手を経て、芸術文化学科非常勤講師

アルミ板を支持体にアクリル絵の具による絵画制作

現在、独立美術協会会員

主な個展

2004 あかね画廊(東京)

2008 コートギャラリー国立(東京)

2013 アトリエスズキ(東京)

2016 櫻木画廊(東京)

[主なグループ展]

2005 「上野の森美術館大賞展」上野の森美術館(東京) 2012 「CAF'N展」埼玉県立近代美術館(埼玉)

主な受賞歴

2005 「上野の森美術館大賞展」優秀賞

2008 「独立展」損保ジャパン奨励賞

2012 「独立展」小島賞

2013 「独立展」独立賞